

平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095700011		
法人名	有限会社 あゆみ		
事業所名	グループホームあゆみ2番館		
所在地	福岡県嘉穂郡桂川町大字土師3285-1		
自己評価作成日	平成27年2月27日	評価結果確定日	平成27年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは住宅地の高台に位置し、通りを行きかう車や田園風景を見渡せ田植えや稲刈りなどの光景も見る事ができ季節を感じる事が出来ます。ホームの庭は広く木や花が植えられ季節を彩っている。天気の良い日は近所を散歩したり、庭の片隅にあるベンチでお茶を飲んだり、食事をしたり楽しんでい。健康維持のため、毎日のラジオ体操や季節に応じた作品作り食事の準備など、個人の能力に合わせ出来ること出来ないことを見極めながらサポートしている。近所の方や家族の面会も多いため、いつも入居者の方の笑顔が見られ生き生きとしている。健康面では、訪問看護にて健康管理を行い、月に一度、主治医の往診があり健康面の相談を行っている。主治医と訪問看護の協力の下、看取りを行う体勢を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目のグループホームあゆみ2番館は、理念に沿ったケアを実践したいと、外部研修で学んできた入居者のその時の言葉を記載する気づきノートを作成している。居室の天井に飾られたオレンジの紙風船を見て「美味しいそうみかんやね」と話す寝たきりになられた入居者に、みかん汁をとろみをつけて食べていただき、「美味しい」との言葉が聞け、職員は働く喜びを感じている。そして、今年度も地域同業者連絡会の催しである餅つき大会の開催を引き受けたり、新たに小学6年生の職場体験を受け入れ、入居者の笑顔が多く見られる機会を創るなど、理念の実践に努めている。また、夏祭り後に家族会が発足し、回覧板で呼びかけた防災訓練に参加された地域の方に入居者誘導をお願いするなど、家族や地域の理解や協力で、より地域に密着したサービスが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームあゆみ2番館**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会や日々のケアの中で、確実に実践している 地域の方や家族の関わりを大切にしながら、日々理念の共有に努めている	「明るく温かい笑顔で、ゆっくり楽しく一緒に、みんなで大きい家族を目指します」との理念に沿って、日々入居者の気持ちに寄り添い、入居者の家族だったどんなケアが最適かを考えつつ支援している。時には、入居者の言葉に職員は働く喜びを感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加できるように努め、ホームの行事など近所の方の協力を得ている。	新たに小学6年生の職場体験を受け入れている。子どもたちとの会話や車椅子での散歩などの関わりの中で、入居者の笑顔が多く見られた。町の高齢者会食会には、殆どの入居者が参加し、文化祭には入居者の作品の出展が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の介護体験実習を受け入れたり、地域の方の見学会を行ったり、認知症についての理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの活動内容や入居者状況など報告し、委員の方から意見やアドバイスを受け職員へ周知しサービス向上につなげている	適切なメンバーで、2ヶ月毎に開催され、会議録が整備されている。外部評価の報告や避難訓練に参加された地域の方々の参加報告、行政からは今後の介護保険報酬の改正等について説明がされている。	以前の会議で報告されているヒヤリハットと思われ事由は、別にノートを作成し事故防止に役立てることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで、情報交換を行い連携をとっている。	地域同業者連絡会の催しである餅つき大会の開催を、今年度もあゆみ2番館で引き受け、おいおい賑わった。また、地域包括支援センターとは、相談や空き室の問い合わせや紹介などで、連携がとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつでも面会や見学に来て頂けるように、日中は玄関を施錠していない。日頃から、勉強会で身体拘束について話をし拘束のないケアを行っている	帰宅願望のある入居者も対話を通し「ここにいる」ことが認識でき、現在は落ち着いている。ターミナル期の入居者が訪問看護で点滴治療を行う時も、拘束をせず見守りに対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に限らず、精神面でも苦痛を与えないよう心がけ、日々の介護で職員がストレスを溜め込まないよう話を聞き、ストレス発散の場を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、行ってない。 今後、勉強会などで実践的に制度についての学習会を設け、活用できるように支援して行きたい。	日常生活自立支援事業と成年後見制度のパンフレットを整備し、入居時説明している。現在、成年後見制度を家族の要望で2名の入居者が活用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は理解が得られるよう、わかりやすく説明を行い、心配事や悩みがないか話を聞き、入所後でも何か分からないことがあれば、いつでも相談して頂けるよう、日頃から家族とのコミュニケーションを大切にしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や入居者が気兼ねなく意見や不安を言えるように、日頃から話しやすい雰囲気作りを大切にしている。ホームに直接言えないこともあるため、意見箱を設置したり、行政の窓口等の案内もしている	殆どの家族が参加される夏祭りの際に30分程時間を確保し、年1回の予定で家族会を発足している。家族の方々の顔合わせと行事報告をした。家族からは、特に要望はなかったが、テーブルを囲み家族同士の話が續いていた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを密に取り、勉強会などで意見交換を行い情報の共有に努めている	毎月1回勉強会兼、定例会や、担当者会議で活発な意見交換がされている。遅出と夜勤者の2人体制の夕食後の役割分担について話し合い、仕事の段取りがスムーズになっている。また、研修受講で学んだ「気づきノート」を作成し、入居者の意向の把握や共有が促進している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務については希望を聞き、職員が働きやすいシフト作りをしている。資格取得や研修等の参加、費用についてはホームが負担し勤務を調整している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時には、年齢や性別の制限は行っていない 本人の働く意欲や能力を尊重し採用している。 職員の能力が発揮できるよう、職員の思いやアイデア等を十分に汲み取り、業務につなげ反映している	10代～70代の職員が勤務しており、今年度は職員の異動はない。70代の職員の夜勤なしで非常勤の就労を支援したり、希望休の取得や研修受講のための勤務調整をしている。資格取得についても管理者から勧めることもあるが、職員の意向を大事にして、必要な勤務調整を行っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内で研修を行い人権教育、啓発活動に取り組んでいる	虐待防止マニュアルを整備し、ホーム内での研修を年1回必ず行っている。定例会や朝のミーティングで、言葉遣いや入居者へのケアや対応を具体的に話し合い、入居者の人権を尊重する支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、参加しやすいよう勤務を調整し参加させている 研修後は、勉強会にて報告し情報の共有に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	町内のグループホームで連絡会を立ち上げ、定期的に情報交換を行ったり、グループホームの交流会などを行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には不安を取り除くためにも必ず本人、家族と面会し、生活の様子や心配事等に耳を傾け、本人の意向に沿えるよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家族の悩みや要望に耳を傾け、不安の解消に努めている。入所後は、まめに連絡を取り報告をしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの意見や心配事を真摯に受け止め、職員間で情報交換を行い、必要としている支援を見極めサービスに努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態を把握し、出来ること出来ないことを見極め、共に協力しながら信頼関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも自由に面会が出来るよう時間の制限は行っていない。行事等がある場合は、家族へ案内し参加していただいている。外泊や外出等も自由に出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の交流会等には積極的に参加している。 いつでも面会に来ていただけるよう声かけを行ない、馴染みの関係が途切れないよう支援している	息子さんの協力で、自宅の夫の仏壇にお参りすることが継続している入居者もある。家族や来所された近所の方に関係の継続をお願いし、入居者の居室には、近所の友人が作成した折り紙のおひな様の作品が飾られていた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や雰囲気を見ながら、必要に応じて職員が間に入ったり、座る位置など考えている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は、入院が長引かないように主治医へ連絡を密に取り早期に退院できるよう調整している。退所後も、家族と連絡を取り様子を見に行くなど その後の状態を把握している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から思いや意向をお聴きするとともに、日々の生活の中で言葉にされたり、行動にされたりするもの、また表情からそれぞれの方の気持ちをくみ取るよう努めている。	センター方式のアセスメントシートを活用し、24時間の個々の生活リズムと、病歴、職歴、嗜好、苦手な食べ物行きたい場所が記載され、全職員で共有している。「その方を細かく観察しましょう」と外部研修で学んできた職員の提案で「気づきノート」を作成している。入居者の意外な面や、その時の意向の把握に役立っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報と、ご家族からお聴きする入居までの経緯や生活歴、ご本人が話される内容から把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に過ごす中で行動や言葉、表情の観察をし、またそれぞれの方のケース記録から把握している。3ヶ月ごとにセンター方式のアセスメントを実施し、変化に気づくよう経過を追っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の意向を伺い、3ヶ月に1度と入退院や問題発生時などの必要時に、担当者会議を開催している。すべてのスタッフが意見を出し、話し合った上で、その時の状況に応じた計画を作成している。	3ヶ月毎のモニタリングで、本人や家族の意向を把握し、本人が出来ることや支援する内容が担当者会議や定例会で話し合われ、介護計画が作成されている。居室の天井に飾られたオレンジの紙風船を見て「美味しそうなかんやね」と話す寝たきりになられた入居者の言葉に、みかん汁をとろみをつけて食べていただき、「美味しい」との言葉が聞けるなど、日々より良く暮らすケアが実践されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は必ず毎日細かく記載し、出勤して勤務に着く前に必ず目を通した上でケアにあたっている。また、よりきめ細やかな気づきができるよう、スタッフがそれぞれ一人の入居者を担当してケアしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年次計画やその月の予定以外にも、その時々に入居者さまから出る外出やレクリエーションを、対応できる範囲で実施している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には積極的に参加している。特に文化祭には、作品を出展し作る喜びや作品を完成した後の達成感を味わって頂いている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医にお願いしているが、入所以前からの係りつけの医を希望されている方にはそのまま利用して頂いている。	歯科など専門医やかかりつけ医の受診は職員が同行し、身体状況の報告と把握に努めているが、必要に応じて家族にも同行をお願いしている。週1回の訪問看護と月1回の往診も継続して、健康管理を行っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護にて健康管理を行っている。職員の心配事や気づきに耳傾け、相談に載って頂き、心配があれば主治医へ相談し、適切な受診が出来るよう支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した場合、不安を感じないように、出来るだけ多く面会に行き、面会に行った場合は入院中の経過を聞き、出来るだけ早期に退院が出来るように調整している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が入院した場合、不安を感じないように、出来るだけ多く面会に行き、面会に行った場合は入院中の経過を聞き、出来るだけ早期に退院が出来るように調整している。	入居時に重度化や終末期のホームの指針を説明し、緊急時の対応同意書を取り交わしている。昨年末より歩行から車椅子となり、現在は寝たきりになられた入居者があり、家族と連絡を取りながら、日々身体状況や安全安楽に配慮しながら、清潔の保持や過ごし易く楽しい空間作りや慰安に努め、笑顔が見られる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し勉強会を行っている。 必要に応じて看護師が指導をしている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、避難経路の確認誘導の方法、通報訓練、消火訓練を行っている 今年度より、近所の方に協力して頂き一緒に避難訓練に参加して頂いている。	災害時の飲料水と食糧の備蓄をしている。防災訓練時回覧板で参加を呼びかけ、5名の参加があり、避難誘導のお手伝いをして頂いた。緊急通報システムやスプリンクラー、消火器、連絡網等を整備し、今後は、救急蘇生法やAED等について学びたいと考えている。	予定されている救急蘇生法やAED等の研修の開催や参加を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを持ちながらも、個人の人権、尊厳を守り 声かけに対しても言葉を選び、誇りやプライバシーを損ねない気を付けている	ホームの生活になれ、職員の知恵を絞った支援で信頼関係ができ、汚れた下着を隠していた入居者は、きちんと洗濯に出されるようになっていた。職員は本人のプライバシーや尊厳を大切に穏やかな声かけで支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をしても入居者優先で、希望や思いを表せ自己決定がしやすいように声かけを行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれの一日の生活を把握し、個人個人のペースに合わせ、本人の意見や希望を尊重し、楽しく過ごして頂けるよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出する際には、お化粧をしたり服選び等一緒にし、おしゃれをする喜びを味わって頂いている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、野菜を切ったり皮をむいたり、その方の出来ること出来ないことを見極めながら、一緒に食事の準備・後片付けを手伝って頂き、自分で作ったという喜びや楽しみを持って頂いている	社長の自家農園から新鮮な野菜が届き、季節感のある献立の食事である。野菜の皮むぎやゴマ擦りなどを手伝い、「ありがとう」との職員の声かけに入居者は嬉しそうである。咀嚼や嚥下に合わせて食事形態を変えたり、疾患を考慮して量の加減している。職員は見守りや介助をしながら、同じ食卓を囲んでいる。入居者と作った干し柿とホウレン草の白和えや、具沢山の豚汁、ひじきの炊き込みご飯が美味しいと、ほとんどの入居者は自分のペースで完食されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事の提供を行い、好みや咀嚼力など個人の状態に合わせ提供している 食事摂取量や水分量など記録し、健康管理につなげている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、必ず歯磨きの習慣を付け、出来ない方は職員が介助し、口腔衛生に努めている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表をつけ、その人のリズムパターンを把握しトイレ誘導に努めている。一人ひとりの状態に合わせてポータブルトイレの利用やパット、紙パンツの使用など考え支援を行っている	失禁があるため全員紙パンツを使用しているが、排泄リズムを把握して、トイレでの排泄を支援している。寝たきりになられた入居者の頻回な下痢のパターンを把握し、シャワー浴や陰部洗浄・清拭で、皮膚の発赤なども認められない。3か所あるトイレは広く暖房兼脱臭器が設置され、清潔と安全の配慮がされている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には気を使い、食物繊維の多い食事を提供したり、こまめな水分摂取を心がけている。 毎日のラジオ体操や天気の良い日などは散歩を行い、自然排便に向けて適度な運動を行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、入浴できるようにしている。順番に対しては、順番表を利用している。入浴を楽しめるように、一人ひとりのペースにあわせ、ゆっくりと気持ち良く入浴が出来るように支援している。	明るい家庭的な個浴の浴槽が設置され、毎日1人の職員が入浴を担当するため、全身を観察する機会になっている。手作りのルーレットで毎日入浴の順番を決定し、日に何度も順番を見に行ったり、浴室の前で順番を待つなど、入浴が楽しみになっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムを把握しながら、昼夜逆転にならないように気をつけ、適度な休息をとりながら生活のリズムが安定するように心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方と説明書を確認し、服薬の支援をするとともに症状の変化の確認を怠らないように努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の編み物や刺し子など作る喜びを味わっていただくため、玄関に展示したり、得意分野の食事の準備等役割を持っていただきながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度は外出出来るようレクリエーションを考えている。それ以外でも、希望にあわせ散歩をしたり家族と外出できるように支援している	初詣や季節の花見を楽しみ、社協の呼びかけでヤフードームで野球観戦しながら弁当を食したり、帰りの夜景を楽しんでいる。ホームの広い庭の散歩や、出勤時花が見頃だったと職員の発案で近隣の花見出かけたり、病院受診時の帰宅途中外食して気分転換する等、入居者の状況や天候に応じて、外出機会を臨機応変に設けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っているが、外出した際には本人に支払いをしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせ、電話をしたり、送られた手紙の代読をしたり、関係が継続出来るように支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と入居者が一緒になって、季節に合わせた作品を作成し、行事の写真なども展示し居心地の良い空間を演出している。温度や光、においについても気を配り快適に過ごせるように配慮している。	広い駐車場周辺は、車椅子が使用できる散歩道があり、季節の花木の植栽やプランターに可愛い草花が植えられ、木陰にはベンチも配置されている。ホームは明るくゆったりとした造りで、手摺付きの広い廊下は車椅子や歩行器の移動が容易である。広いリビングにはオープンキッチンの前にテーブルがあり、窓際に置かれた大きなゆったりとしたソファの足元にはガス暖房器が設置され、空気清浄機で空調が管理されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや本人の思い思いの場所で過ごして頂いている。天気の良い日は庭先にあるベンチに腰かけ花壇に咲いている花を眺めたり楽しんでいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の自宅と同じように安心して過ごしていただくため、使い慣れた家具等、本人の好みのものを持参して頂き、居心地良く過ごしてもらえよう工夫している	居室の入り口は写真入の表札と目印の花が飾られ、引き戸を開けると左側に洗面台、多くの物が収納できる2畳の広さのクローゼット、ベッド、エアコンが取り付けられている。馴染みの筆筒や寝具を用い、部屋の壁面には入居者それぞれの嗜好や状況に合わせて飾りつけがされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は広く、ゆとりのある作りで、手すりやスロープも設置している。居室には分かりやすいように写真を貼り目印にしている		